



第6分団長
荒井孝作さん
36歳・入団13年目

分団長になって1年、責任感を胸に活動しています！

父から続く、親子二代の消防団員・荒井さん。7月の県操法大会では指揮者を務め、第6分団を優秀賞へと導きました。

「父から続く、親子二代の消防団員・荒井さん。7月の県操法大会では指揮者を務め、第6分団を優秀賞へと導きました。」

「父から続く、親子二代の消防団員・荒井さん。7月の県操法大会では指揮者を務め、第6分団を優秀賞へと導きました。」

「父から続く、親子二代の消防団員・荒井さん。7月の県操法大会では指揮者を務め、第6分団を優秀賞へと導きました。」

団員インタビュー



第6分団副分団長
川邊光朗さん
36歳・入団7年目

「自分たちのまちは、自分たちで守る」。消防団は一般市民で構成される組織で、現在海老名市内には15の消防分団（1カ分団は休止中）があり、194人が団員として活動しています。

その歴史は古く、江戸時代の火消しが始まりと言われ、その奉仕の精神は、現在も受け継がれています。

地域防災の担い手

団員は、いつ起こるかわからない災害に備えて、防災知識、技術の習得や、日々の訓練に励んでいます。災害が発生し、出場要請があれば、休日や深夜でも現場へ駆けつける。その姿は、「まちのヒーロー」そのものです。

消防団の活動

分団ごとに、毎月決まった活動日に集まり、放水やポンプの操作方法などの訓練を行います。また、年末など火災の発生しやすい時期には、消防車で地域を巡回し、火災予防の啓発を行っています。

そのほかに、消防出初式やポンプ車操法大会、地域の行事などにも参加しています。

実は、消防団のことをよく知らないまま入団したんです

団員インタビュー



第6分団
緒方進太郎さん
35歳・入団3年目

最初の誘いは断りましたが、今は入って良かったと思います

海老名に住んで10年、環境関連の会社に勤務する緒方さん。家族は妻と子どもが2人。仕事と活動の両立について尋ねると、「団員はみんなそうですが、仕事が忙しい時と活動が重なると大変です。活動内容は、周りから見にくい部分も多いので、家族や職場にはきちんと活動内容を伝え、理解を得られるように心掛けています」と、活動を続けやすい環境づくりの大切さを話してくれました。「地域と人間関係のつながりが急速に広がったことが、入団して一番良かったところ。そして、純粋にお互いを尊重しあえる仲間に出会えたことも。社会人になってから、そういう体験をすることはなかなかないと思うので、貴重な経験をさせてもらっていると思います。」



まちのヒーロー、消防団
一緒にまちを守りませんか？

「自分たちのまちは、自分たちで守る」。消防団は一般市民で構成される組織で、現在海老名市内には15の消防分団（1カ分団は休止中）があり、194人が団員として活動しています。

その歴史は古く、江戸時代の火消しが始まりと言われ、その奉仕の精神は、現在も受け継がれています。

地域防災の担い手

団員は、いつ起こるかわからない災害に備えて、防災知識、技術の習得や、日々の訓練に励んでいます。災害が発生し、出場要請があれば、休日や深夜でも現場へ駆けつける。その姿は、「まちのヒーロー」そのものです。

消防団の活動

分団ごとに、毎月決まった活動日に集まり、放水やポンプの操作方法などの訓練を行います。また、年末など火災の発生しやすい時期には、消防車で地域を巡回し、火災予防の啓発を行っています。

そのほかに、消防出初式やポンプ車操法大会、地域の行事などにも参加しています。



聞いてみました！

私たちの安全・安心を守るため、日々さまざまな訓練や活動を行っている消防団。入団のきっかけや、活動を続けている理由など、第48回県消防操法大会ポンプ車操法の部で優秀賞に輝いた、第6分団の方にお話を伺いました。

第6分団には、個性豊かな団員が集まっているそうです。各自仕事をしながら、練習や準備も、空いた時間を見つけて、自分のできることを進んでやる仲間たち。お互いを信頼しあい、尊重しあいながら活動を行っているそうです。

応募資格は、市内在住または在勤で、18歳以上の健康な方。入団する分団は、居住地または勤務地近くの分団になります。地域の安全を守るため、ぜひあなたの力を貸してください！入団希望の方は、消防総務課までお気軽にお問い合わせください。

[主な活動]

- ◆災害時は…消火活動、救助・救出活動、警戒巡視など
- ◆普段は…消火訓練、消火栓・防火水槽の点検、防火啓発活動など

消防団員募集！